

令和 8 年度 学校経営計画表

1 学校の現況

学校番号	72	学校名	下館工業高等学校						課程	全日制		学校長名		飯島 純一			
教 頭 名	大塚 健司										事務（室）長名		松本 敏秀				
教職員数	教諭	44	養護教諭	1	常勤講師	2	非常勤講師	3	実習教諭、実習講師、実習助手		9	事務職員	4	技術職員等	4	計	67
生徒数	小学科		1 年		2 年		3 年		4 年		合計		合 計 クラス数				
			男	女	男	女	男	女	男	女	男	女					
	機 械 科		75	5	57	5	62	3			171	16	5				
	電気・電子科		71	5	72	6	69	8			148	15	5				
	建設工学科		25	6	19	4	26	3			157	14	5				

2 目指す学校像

- 1 心身ともに健康で、豊かな人間性と主体性を育てる学校
- 2 工業に関する知識・技術を身に付け、それらの学びを通して社会課題の解決に向き合い、次世代の産業発展に寄与する人財を育成する学校
- 3 多岐にわたる生徒の希望進路を実現できる学校

3 三つの方針 (スクール・ポリシー)

育成を目指す資質・能力に関する方針 (グラデュエーション・ポリシー)	生徒の主体性、コミュニケーション能力を高め、次世代の技術者 (次世代を担う人財) としての、問題解決能力、情報活用能力の習得
教育課程の編成及び実施に関する方針 (カリキュラム・ポリシー)	協働的な学習や (外部人財を活用した) 実践的な学びを通し、基礎学力の定着と専門教科の探究心を育む学び
入学者の受入れに関する方針 (アドミッション・ポリシー)	工業に関する分野に興味があり、学ぶ意欲と探究心をもち、失敗を恐れず、繰り返しチャレンジする志のある生徒

別紙様式 1 (高)

4 現状分析と課題 (数量的な分析を含む。)

項 目	現状分析	課 題
教 務 部	学校評価アンケートでは、「授業がわかりやすい」「先生は教え方を工夫している」との回答が 90%であるが、「意欲的に勉強している」との回答は 64%にとどまっている。	興味・関心を高める授業の実践や、効果的な演習課題を通して、意欲的に学ぶ生徒を増やす工夫が必要である。
進路指導部	進路状況は就職 6 割、大学 2 割、専門学校 2 割で、進路多様高校としての役割を担っている。大学進学希望者数は横ばい。就職は地元志向が強く、県外の大企業希望者が減少。	進学・就職の目標を高く掲げることで、日頃の授業に対する学習意欲を高める必要がある。進学も就職もできる工業高校として広く P R する。
生徒支援部	大部分の生徒は社会の一員としての責任やマナーが身に付いているが、一部で基本的生活習慣が十分に定着しておらず遅刻や欠席が目立つ生徒、特別な支援や配慮を必要とする生徒がいる。	生徒一人ひとりが、確かな目標を持てるよう、全職員による継続的な指導・支援を図る。また、特別な支援や配慮を必要とする生徒に対して、外部機関等と連携しながら、個々の状況に応じた対応を組織的かつ継続的に行う必要がある。
特別活動部	学校行事や生徒会活動、ボランティア活動など、生徒による自主的・実践的な活動が行われている。さらに、生徒の主体的な企画・運営を目指すことで、生徒の満足度を高める。	特色ある学校づくりの観点から、工業高校としての魅力を発信していく必要がある。特別活動を通して、生徒の主体的な態度を育てていく。
働き方改革	月 4 日程度の定時退勤日を設けるとともに、完全退勤時間には職員室を施錠することで、勤務時間を超過する教職員数が減少する傾向にある。	働き方改革に対する教職員の意識を高め、業務等の精選を進め、業務分担の平準化・効率化に努める必要がある。

5 中期的目標

- 1 主体的かつ協働的な学びの中で、希望進路実現のための確かな学力を育成する。
- 2 ICT 機器の活用や外部連携・教科横断授業などを通して探究活動を深め、生徒の課題解決力や情報活用力を育成する。
- 3 生徒の多岐進路希望を実現するため、進路指導体制の充実を図る。
- 4 地域から選ばれる学校としてあり続けるため、生徒の学ぶ意欲や興味関心を高めるカリキュラムや行事を実践する。
- 5 国際理解教育、シチズンシップ教育を推進する。
- 6 月平均 45 時間超過勤務割合を 0 %にする。

別紙様式 1 (高)

6 本年度の重点目標

重点項目	重点目標
1 学習指導の充実	1 指導と評価の一体化による授業改善 (R→P→D→C→A) 2 1人1台端末を活用した協働的な学びの実践と個別最適な学びの推進 3 実践的・体験的な学習機会を取り入れた工業教育の充実及び資格取得の推進
2 生徒支援の充実	4 挨拶の励行、遅刻指導、服装指導等を通じた基本的生活習慣の確立及び規範意識の醸成 5 生徒理解に努め、全ての生徒にとって安全・安心な居場所づくりの実現 6 専門家や関係機関等と連携した組織としての生徒指導・生徒支援の実践
3 進路指導の充実	7 多岐にわたる進路選択肢の周知と進路意識の高揚 8 体系的に企画された進路ガイダンス等の実施
4 特別活動の充実	9 各種行事等における生徒の自主的な活動の推進 10 部活動運営方針に基づく健全な部活動運営の実践 11 キャリアパスポートを活用した、自己理解、キャリア形成の支援
5 働き方改革の推進	12 教職員のワークバランスの意識の醸成を図り、超過勤務時間の削減 13 定時退勤日、閉庁日の設定、年次休暇取得の推進
6 地域連携・対外的活動の充実	14 インターアクトクラブを主体としたボランティア活動の推進 15 地域イベント等への積極的な参加による、外部への本校の魅力発信の強化 16 学校ホームページを活用した生徒の活躍状況等の適時発信
7 授業改善の推進	17 相互授業参観、他校視察、校内研修、教科横断授業等の推進 18 生徒の授業評価における、全教科平均 3.5 以上